

本日、鈴鹿工業高等専門学校令和2年度入学式を挙行出来ますことは誠に喜ばしく、本校の教職員ならびに在学を代表し、準学士課程203名、留学生3名、専攻科30名の新入生に、改めて入学のお祝いを申し上げます。新型コロナウイルスの影響で入学後の高専生活が不自由だった皆さんは、後期から開始したキャンパスでの授業や課外活動で、改めて鈴鹿高専への入学を実感されていることと思います。皆さんの高専生活が実りあることを願い、お祝いの言葉に代えて、今、高専で学ぶことの意義と心がけて頂きたいことをお話しします。

政府は2020年を日本のデジタル元年と位置づけました。皆さんは新しい時代に突入したこの年に高専に入学されました。しかしデジタル元年が到来する以前から、人工知能などの技術革新や産業構造の変革によって私達の社会は人類がこれまでに経験したことがないスピードで大きく変化し続けています。それに伴い、社会が求める技術者像が大きく変化し、近年の技術者には従来よりも高度な能力が求められるようになりました。高専の使命も変化しています。58年前の高専設立時の目的は実践的な技術者の育成でしたが、今は国際的に通用する高度な実践的技術者の育成が求められています。それでは、近年技術者に期待される高度な能力とは何でしょうか。それを説明したいと思います。

従来の技術者は明確な課題を技術的に解決することが求められ、知識や技術があればある程度通用した側面があります。しかし近年は、社会が抱える問題が極めて多様な要素を含むために、問題の正しい解が無い時代と言われていました。この不確定な社会で重要とされるのは、解の無い問題に立ち向かえる力、広い意味で問題解決能力であり、それが高度な能力です。具体的には、課題に主体的に取り組む能力、従来の常識に囚われないクリエイティブな発想力、そしてコンピュータやロボットが到達できない豊かな感性が必要と言われていました。

これらの能力や感性は一朝一夕では身につけません。それを獲得するためには、協働体験、つまり同じ目的を達成するために他の人と協力する経験が極めて重要と言われていました。新入生の皆さんはこれからの高専生活で、勉学に励んで確かな学力を身につけると共に、個々の関心や意欲に応じて様々なことに積極的に取り組んで下さい。これが、皆さんに心がけて頂きたいことです。鈴鹿高専は授業でも協働体験を重視しており、例えば4年生の創造工学では5つの学科の垣根を取り払って問題解決に取り組めます。専攻科では研究そのものが問題解決の究極の訓練と言えるでしょう。

本校の建学の精神である、知・徳・体のバランスがとれた全人教育は時代と共に古びること無く、今一段とその輝きを増しています。この素晴らしい建学精神に則り、皆さんが鈴鹿高専で学び、色々なことに思い切り取り組み、良き友を沢山作り、青春を謳歌し、それぞれの個性に応じて成長されることを期待し、お祝いの言葉とします。

令和2年11月4日

鈴鹿工業高等専門学校長 竹茂 求